

共生・公正・創造



# 東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## 【シリーズ31】

### 迫り来る包囲網を前に再豹変？ 新戦略？ そして反戦平和活動は！

「月刊『創』松崎明・鈴木邦男対談録中の松崎発言に対する「嶋田たち」派の反感・反論

「月刊『創』松崎明・鈴木邦男対談録中の“松崎発言”は関係者の間に広範に広まり、大きな話題となったが、05年2月10日、新・嶋田たちのホームページの「今、起きていること」欄に＜東労組の将来を憂う組合員＞名の投稿が掲示された。そこでは、内容的に「月刊『創』・“松崎発言”に対する反松崎・反本部派からの総反撃とも言える重大な主張が数多く展開されている。JR東労組内部から松崎氏の「背任・横領」疑惑を詳細に論じた貴重な資料なので、長文ではあるが次に紹介しておく。

私は動労の元組合員でした。JRへの移行後は東労組の組合員として活動を進めてきました。退職まで一年余となった現在も機関役員は退きましたが組合活動に積極的にかかわっております。

『創』（12月号）の鈴木氏と前顧問の対談を読みました。 - 中略 -

『創』での対談にあるように、権力の側がJR総連・東労組の破壊を狙っていることは私も事実だと思います。しかしそうだからと言って、また「公安警察はデッチ上げをやるもの」だからと言って、対談でも触れられている「背任・横領」については「デッチ上げ」の一言で片付けることは許されません。

鈴木氏は松崎前顧問にダマされているか、或いは侮られているかのどちらかだといわざるを得ません。

私は対談で明らかにされているいくつかの内容について、私自身の見解を明らかにしたいと思います。

### いつまで組合員なの？

第1に、松崎前顧問の経歴に関して「2003年までJR東労組役員」と紹介されていますが全くのデタラメです。規約に基づき厳密に言えば、2001年会長職を退任した時点で役員ではなくなっています。2002年7月に開催された本部大会で顧問も辞任し役職から離れています（一時期JR総連特別顧問に就任していましたが）。従って対談の冒頭に「2002年11月の国際会議」時に「私の公用車が搜索された」と言っていますが、その時点では既に役職を離れ、組合から退職金も受け取っています。組合から退職したわけです。

役職を離れ、組合を退職した前顧問が「私の公用車（東労組本部所有の車と思われます）」と言う意味がわかりません。

また後段の方で「私は明らかに労働組合の幹部だったし、今は労働組合員なんですよ」と言っています。これも明らかにおかしいと言わざるを得ません。JR社員（組合員）は会社を退職した時点で自動的に組合員籍を外されます。OB会会員として組合とのかわりを続けていくわけです。従ってJRに在籍しない前顧問は、組合から退職した時点で組合員籍は外れていなければなりません。

しかし前顧問においては「私の公用車」、「今は労働組合員だ」と公言することに一片の躊躇も疑問も持たないんです。

< JR東日本労政『二十年目の検証』211ページから212ページより抜粋 >

# 民主化の声・声・声・・・

2005.12.26 その31

## (読んではいけない?) 「小説労働組合」の読み方!(11) ～佐藤正雄氏失踪事件と、さつき会経理偽装問題～



\* 武藤が理事長を務めている鉄道協会の臨時総会が開かれた。2004年2月末の冷え冷えとした日である。・・・病気療養のため入院中の武藤理事長に代わって、協会副理事長で鉄道連合委員長の軽部が挨拶した。「昨年来、わが協会に警察が捜索に入り、多くの帳簿類を持ち去った。以降、大元に横領、脱税の疑惑がかけられている。監督官庁からの運営改善指導の期限も近づいている。」評議委員会の出席者は、従来の各単組の地本代表から単組代表に切り換えられた。これで大元による組織の私物化などと指弾している信越地本代表などは参加できず、会議は効率的になった。総会の内容も組合員に洩れる心配もなくなった。総会終了に引き続き旧運転労組の清算団体である「椿会」総会になった。鉄道連合の役員を兼務している「椿会」事務局長の報告には参加者全員が唖然とした。「会長の指示で椿会の資産状況を整理してきた。結論を一言でいえば破綻そのものである。なぜ破綻したのか。その原因は誰にも分からない。帳簿類も不備で保管も運用もキチンとされていない。ただ支出金だけが必要の都度引き出されている。誰が何に使ったのかも分からない。資料もないので具体的に調べるのは不可能である。個人貸付も多いが、その中には死亡した会員も何人かいる。これは棒引きにする以外にない。株式会社の椿商事と社員7人に貸し付けている分は返却を求めていく」事務局長は参加者の目つきが次第に険しくなっているのが気になっていた。「ただし、貸し付けてある椿商事は経営が厳しい状況にある。現在、『鉄道友愛会社』に合併吸収される方向となっており、実質的に返却は不可能である。以上から本会の資産と会計の現状の打開は難しいと判断できる。整理するべきものが終わった段階で本会は解散することにしたい」・・・「椿会」の臨時総会は終わった。(p.162～164)

東労組の組合員が配っている本であり、解説書まで出回っているわけであるが、告訴好きの団体のことを考え個人名は極力避けると、おそらくこの文脈の読み方は次のとおりであろう。

【2004年2月末、武藤(S氏)が理事長を務めている鉄道福祉事業協会の臨時総会が開かれた。入院中の武藤(S氏)理事長に代わって、協会副理事長で鉄道連合委員長のOが挨拶した。「昨年来、わが協会に警察が捜索に入り、多くの帳簿類を持ち去った。以降、大元(M氏)に横領、脱税の疑惑がかけられている。しっかり意思統一をはかりたい」・・・総会終了に引き続き旧運転労組の清算団体である椿会(S会)総会になった。そこで経理破綻を理由に解散を決めた】

小説があまりにもリアルなので解説の必要もないが、このころ、JR総連・東労組の元会長、松崎明氏の逮捕説が噂されていたのは事実である。嶋田たちのホームページによると、旧動労の清算団体である「さつき会」の解散も事実のようである。同ホームページによると、「さつき会が鉄道福祉事業協会から借りた使用経緯を明らかにせよ」と迫っている。